



9月に入っても暑い日が続いていますね。こども園では、りんご病と診断されたお子さんがいます。

**微熱や風邪症状、顔や手足に発疹が出た場合には医療機関を受診していただくようお願いします。**

**また、りんご病と診断された場合には、登園の際に登園届の提出が必要となります。**

## でんせんせいこうはん

伝 染 性 紅 斑 とは両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症  
伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。  
両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

## 主な症状

約 10～20 日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます（写真1）。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります（写真2）が、これらの発しんは 1 週間程度で消失します。中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

多くの場合、頬に発しんが出現する 7～10 日くらい前に、微熱やかぜのような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。

▼写真 1：両側の頬に出現した蝶翼状の発しん

▼写真 2：上肢伸側に出現した発しん



引用 [伝染性紅斑 | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト](#)

## 感染経路

感染した人の咳のしぶき（飛まつ）を吸い込むことによる感染（飛まつ感染）や、感染者と接触したりすることによる感染（接触感染）が知られています。

## 治療方法

伝染性紅斑に、特別な治療法はありません。基本的には軽い症状の病気のため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。

## 予防と対策

伝染性紅斑を予防するワクチンや薬はありません

前述の通り、紅斑が出ている時期にはほとんど感染力がないため、かぜ症状のある人はこまめな手洗いや、せきやくしゃみをする時には口と鼻をハンカチ等でおおうなどの「[咳エチケット](#)」を心がけることが大切です。

## 虫刺されについて

虫刺されで刺された部分が腫れている、または、掻き壊して患部から浸出液が出ているお子さんがいます。虫刺されの症状は、幼い子どもほどひどくなりやすく長引きやすい傾向にあります。虫刺されの対策や処置についてお知らせしますので参考にさせていただきます。

### 虫刺され

蚊に刺されると、かゆくてつらいだけでなく、かきこわして傷口が化膿したり、「とびひ」になったりすることもあります。蚊に刺されたら、早めのケアが大切です。

油断大敵！



#### 石けんで洗いましょう

刺されたところを石けんで洗って、かゆみのもとを洗い流します。水で冷えてかゆみも軽くなります。

#### かゆみを和らげましょう

かゆがるときは、ぬらしたタオルや保冷剤で冷やしたり、かゆみ止めを塗ったりしてケアします。

#### かゆみやはれがひどいときは皮膚科へ

刺されたところが強くはれたり、皮膚がじゅくじゅくしたりするときは、皮膚科を受診しましょう。



### <病院へかかるべき症状>

1. 市販薬で改善せず、刺された翌日以降も、腫れ・発赤が強く、水ぶくれができています
2. 毎年、蚊刺されの症状が長引く場合
3. 蚊に刺されると毎回高熱を出す場合
4. 蚊以外と思われる虫刺され（ハチ、ダニ、ノミ、トコジラミ等）
5. 稀なことですが、ハチ刺後、意識がなくなるような全身症状が現れた場合には、救急対応を要します

### <子どもは、蚊の遅延型アレルギー反応を起こす>

1. 蚊刺されは、成人よりも小児期に強く反応を起こす人が多く、新生児期を除く乳児期から幼児期の時が一番ひどくなる傾向があります。一般的に幼児期までは、蚊に刺された直後はあまり腫れず、翌日（24時間後）から翌々日（48時間後）まで強い腫れを引き起こすようになります。これを遅延型アレルギー反応と呼び、その間は痛みの方が強く、腫れが引いた後かゆがるようになります。
2. 蚊が注入するアレルギーの量が多ければ反応が強いので、じっとしている時に刺された場合、また一度に多数の箇所を刺された場合には、症状がひどくなる傾向があります。
3. 刺された箇所が、顔（とくにまぶた）、耳、手、足、指を刺されると、強く腫れて痛みを訴えることもあります。